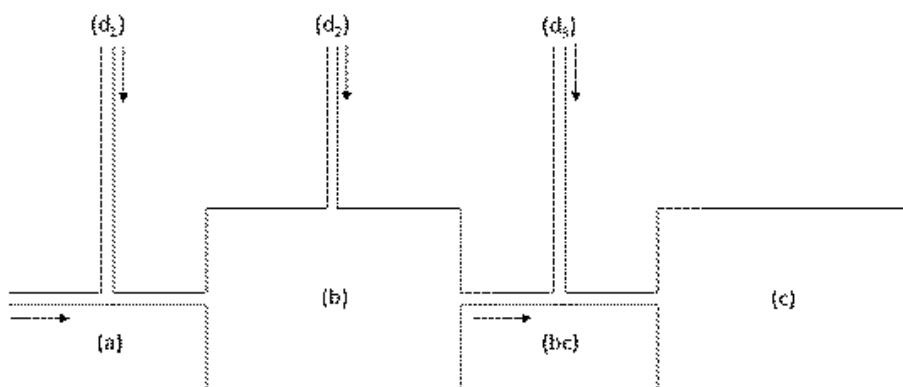


廃棄物処理

省スペース・省エネルギーで有機物の分解が可能な装置

発明の名称	有機物を分解又は炭化する方法及びその方法で使用する装置		
出願人/権利人	合同会社トレスバイオ技研、株式会社E&E、京都和光純薬株式会社	発明者	中村 弘一、酒井 有紀
出願日	平成28年6月28日	出願番号	2016-127718
公開番号	2018-001061	特許番号	—
法的状態	出願中		

代表図



配管(a)、機器(b)、配管(bc)、機器(c)、配管(d1~3)

発明の概要

最小限のエネルギーとスペースで、有機物を高い効率で炭化・分解する方法と装置

特徴

従来は、焼却や触媒を用いた分解等では有機物を処理していたが、大規模な施設と膨大なエネルギーが必要であった。

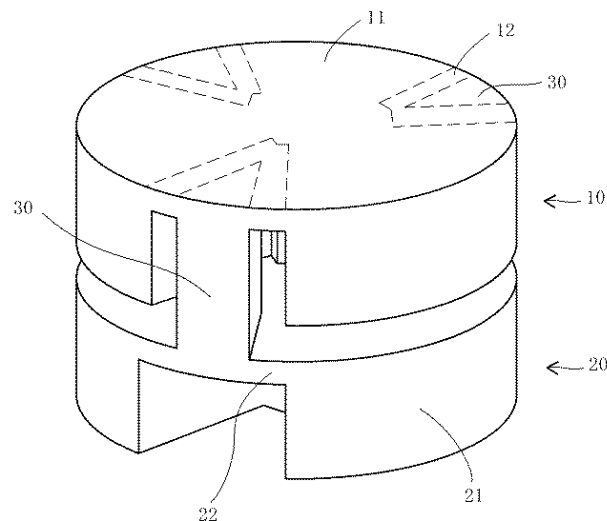
本発明では、加熱炉のように有機物を処理するための個別のスペースを必要とせず、最小限の設備で有機物を処理することができる。また、水分を処理対象となる有機物を含んだ状態で過熱水蒸気に変化させるため、熱の損失がなく、過熱水蒸気と処理対象となる有機物とが十分に混合された状態を得ることができる。非常に高い効率で有機物を炭化又は分解できる。

電子部品・素子

加えられた力と歪が高精度で検出可能な多軸センサ

発明の名称	多軸センサおよび多軸センサの製造方法		
出願人/権利人	日本リニアックス株式会社	発明者	城山 吉見、松元 光輝
出願日	平成26年9月1日	出願番号	2014-177190
公開番号	2016-050883	特許番号	6265430
法的状態	登録中		

代表図 1A



1A: 多軸センサ

10: 第1起歪体 11: 第1バルク部 12: 第1ダイヤフラム部

20: 第2起歪体 21: 第2バルク部 22: 第2ダイヤフラム部

30: 支柱体

発明の概要

低コストで高性能の多軸センサおよび多軸センサの製造方法

特徴

起歪体は力を加えることで歪を発生させる部品である。歪ゲージにより、加えられた力を計測することができる。従来の技術では2つの起歪体をボルトで連結していたが、検出誤差が大きかった。

本発明は、第1起歪体、第2起歪体および支柱体を切削加工により一体的に形成した低コストの多軸センサである。2つの起歪体と支柱体が一体的に形成されているので、第2起歪体に加えられた力と歪が、効率よく正確に第1起歪体の検出素子に伝達される。直線性がよく、ヒステリシス(履歴効果)の小さい高性能の多軸センサが得られた。

関連分野

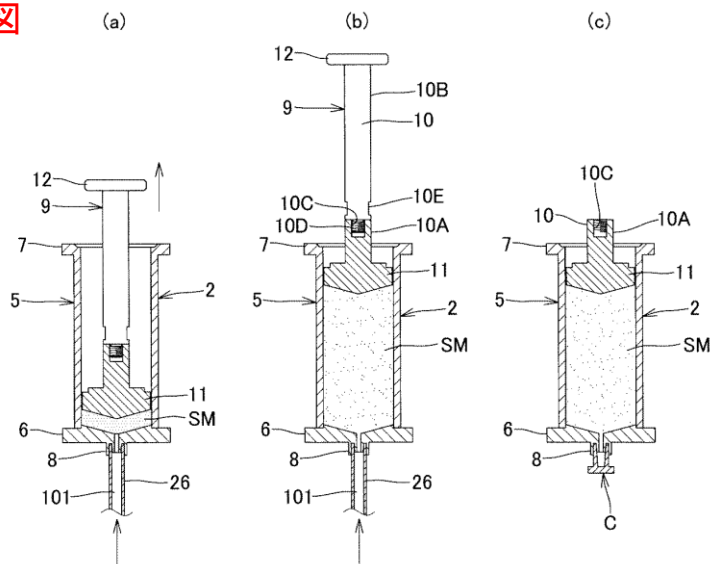
業務用機械、電気機械、建設・土木

ケミカル

閉鎖系で汚染のリスクが少ない効率的な大量細胞培養装置

発明の名称	大量細胞培養システム及びそれに用いる回転細胞培養装置		
出願人/権利人	株式会社ジェイテックコーポレーション	発明者	津村 尚史、植村 寿公、内田 雄大
出願日	平成29年1月19日	出願番号	2017-7993
公開番号	2017-200468	特許番号	6268342
法的状態	登録中		

代表図



C キャップ、SM 細胞液、2 培養ベッセル、5 外筒部、
6 フロントフランジ、7 バックフランジ、8 ヘッド、9 プランジャ、
10 軸部、10A 軸部、10B 軸部、10C メスネジ、10E ノッチ、
11 ガasket、12 プランジャボタン、26 培養液供給管、101 プーリ

発明の概要

再生医療等に使用する細胞の大量細胞培養システム及びそれに用いる回転細胞培養装置

特徴

従来の細胞培養方法では手間が非常にかかり、作業者スキルによるバラツキが大きく、コンタミネーションのリスクも排除できなかった。

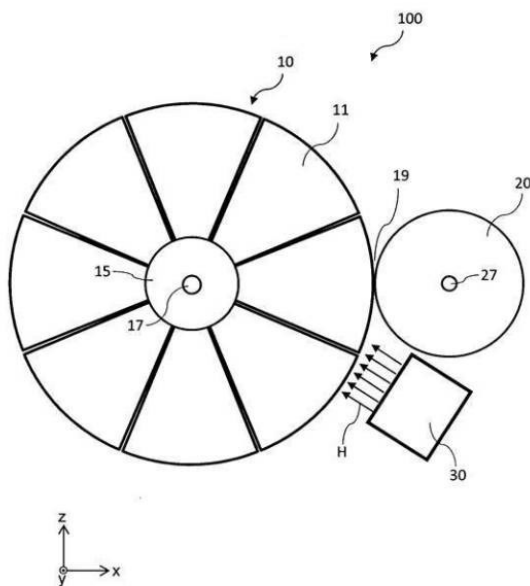
本発明では、培養ベッセルがシリンジ構造となっているので、多くの作業を閉鎖的に行うことができ、コンタミネーションのリスクが少ない。作業者スキルによらず、再生医療等において使用する多能性幹細胞や接着性細胞を大量かつ効率的に培養することができる。再生医療等に用いるために、多能性幹細胞、特にiPS細胞や接着性細胞を効率よく、低コストで大量培養するのに利用できる。

エネルギー

磁歪部材の回転体の回転エネルギーにより発電する装置

発明の名称	逆磁歪効果を利用してエネルギーを発生する装置		
出願人/権利人	関 知意	発明者	関 知意
出願日	平成28年7月1日	出願番号	2016-131386
公開番号	2018-007408	特許番号	-
法的状態	出願中		

代表図



10 回転体、11 磁歪部材、15 支持部材、17、27 回転軸、19 位置、20 第1部材、30 磁石、100 装置、H 磁場

発明の概要

逆磁歪現象を用いて回転体を動かし、エネルギーを発生する装置

特徴

近年、安定したエネルギー供給のため、利用効率の高いエネルギーの供給と新しいエネルギーの開発が望まれている。

逆磁歪効果とは、磁歪材料に外部から力を加えると磁力線が大きく変化する現象である。本発明は、逆磁歪効果により回転体を回転させることでエネルギーを発生させる装置である。複数の磁歪部材のうち1つ以上に力を加えることで、複数の磁歪部材に磁場が印加される。加えられる力の大きさが互いに異なる2つ以上の磁歪部材同士の透磁率が互いに異なることにより、回転体は回転し、エネルギーが発生する。

関連分野

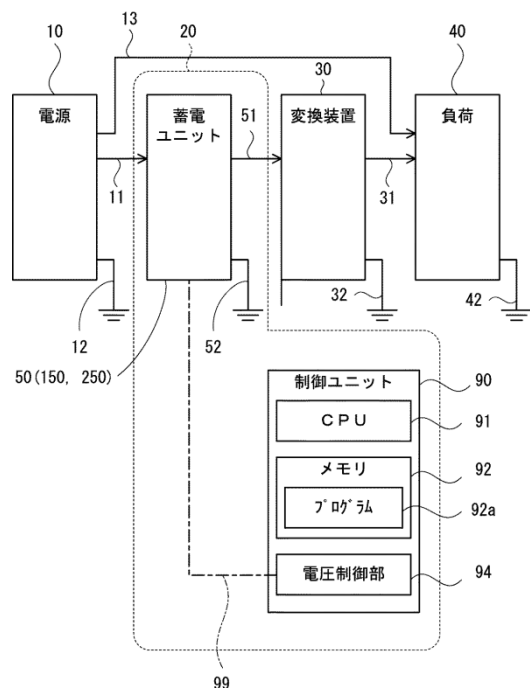
業務用機械、電子部品・素子、電気機械、陸上輸送機械、海・空等輸送機械、建設・土木、運輸サービス

エネルギー

電圧のばらつきを防ぎ、回路の破損を抑制する蓄電ユニット

発明の名称	蓄電ユニット		
出願人/権利人	太陽パーツ株式会社	発明者	村上 宜紀
出願日	平成27年9月17日	出願番号	2015-183500
公開番号	2016-082868	特許番号	6270239
法的状態	登録中		

代表図



- 10 電源
- 11 出力線
- 12 接地線
- 13 出力線
- 20 蓄電装置
- 30 変換装置
- 31 出力線
- 32 接地線
- 40 負荷
- 42 接地線
- 50 (150, 250) 蓄電ユニット
- 51 出力線
- 52 接地線
- 90 制御ユニット
- 91 CPU
- 92 メモリ
- 92a プログラム
- 94 電圧制御部
- 99 信号線

発明の概要

充電中、放電中でも各蓄電用セルのセル電圧をほぼ同一にすることができる蓄電ユニット

特徴

従来技術では、電圧のばらつきにより蓄電池全体の短命化が問題であった。本発明では、調整用セルの電圧は、蓄電ユニットに対する充電処理、放電処理の両方が実行されていない期間でも、複数の第1セル集合に含まれる各蓄電用セルのうちの少なくとも1つのセルの電圧と同じである。そのため、蓄電ユニットに対する充電処理または放電処理が開始され、第2切替部により各蓄電用セルと調整用セルとが順次接続される場合であっても、各蓄電用セルと調整用セルとの電圧のばらつきに起因して回路素子が破損することを抑制できる。

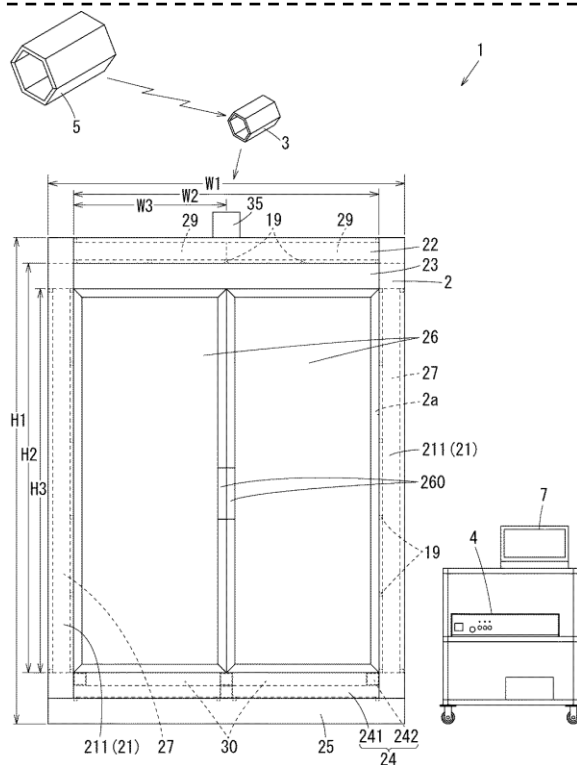
業務用機械

食品の鮮度維持やプラスチックの強化が可能な量子照射室

発明の名称	量子照射室		
出願人/権利人	新エネルギー産業株式会社	発明者	新納 清憲
出願日	平成28年6月29日	出願番号	2016-128554
公開番号	2018-006444	特許番号	—
法的状態	出願中		

代表図

- 1 量子照射システム
 2 量子照射室
 2a 内壁面
 3 アンテナ
 4 量子波発生器
 5 アンテナ
 7 コントロール装置
 19 補強材
 21(211) 支柱
 22 上フレーム
 23 上スペーサ
 24 下フレーム
 25 脚台
 26 前面扉
 27 側パネル
 29 天井パネル
 30 床面パネル
 35 カバー
 241 外側フレーム
 242 内側フレーム
 260 把手
 H (1/2/3) 高さ
 W (1/2/3) 幅



発明の概要

量子波を被照射物全体に、効率良く照射し、肉、魚、野菜の鮮度を保持する量子波の照射室

特徴

従来から、食品やプラスチックにマイクロ波や電磁波などを照射して、変性することが行われている。本発明の量子照射室は、外部から金属筐体に与えられた量子波が樹脂パネルから輻射および反射を行うことで、量子波が照射されて被照射物を変性する。被照射物、特に水分を含んだ食品や植物の内部に到達し易い量子波を、被照射物に効率良く照射することができる。肉、魚や野菜、果物、生花の場合には、活性化して鮮度保持や成長促進ができ、樹脂など工業製品の場合には、紫外線に強くさせることができる。

関連分野

農林水産、飲食、化学、ケミカル、電気機械、専門技術サービス

ケミカル

非常に安全で安価に疎水性活性炭を製造する方法

発明の名称	疎水性活性炭の製造方法		
出願人/権利人	株式会社KRI	発明者	佐藤 正洋、北島 さつき
出願日	平成28年7月15日	出願番号	2016-140658
公開番号	2018-008859	特許番号	-
法的状態	出願中		

代表図

【請求項1】

活性炭に炭素数1～10の炭化水素基を含むハロゲン化アルキル化合物を反応させることを特徴とする表面疎水性活性炭の製造方法。

発明の概要

非常に安全な工程による疎水性活性炭の製造方法

特徴

活性炭を使用して空気中や水中の疎水性物質を吸着させる場合、効率よく吸着するためには、活性炭に適切な疎水性を付与することが必要である。本発明は、活性炭、活性炭素繊維などの活性炭材料の表面に適切な疎水性を与えることにより、水中あるいは高湿度下における疎水性物質の吸着性能を高めた活性炭材料を、安全に、安価に製造する。表面疎水化活性炭は、従来の活性炭と比べて著しく吸湿性を低下させている。疎水化方法では、非常に安全な工程で疎水性活性炭を提供することが出来る。

関連分野

農林水産、飲食、業務用機械、電子部品・素子、廃棄物処理、建設・土木、医療・保健衛生